

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
152	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Parents do matter: a longitudinal two-part mixed model of early college alcohol participation and intensity. 両親の態度：大学生の飲酒行動における混合モデルによる検討	
<b>執筆者</b>	
Walls TA, Fairlie AM, Wood MD.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
J Stud Alcohol Drugs. 2009 Nov;70(6):908-18.	
<b>キーワード</b>	
飲酒行動、学生、両親の態度	
<b>要 旨</b>	
<b>目的：</b> 病理学的に親、同僚、仲間、人口統計学変数は大学入学前から大学二回生までの間に飲酒行動を予想できるとの仮説を検証した。	
<b>方法：</b> 中規模の北東部の公立大学の 388 名の大学の学生を入学前の夏、一回生の春の学期、二回生で評価した。縦断的に混合モデルを用いて検討した。	
<b>結果：</b> 3つのアウトカム(毎週の飲酒、一時的過度飲酒、飲酒関連問題行動)は強い効果が見られた。両親の飲酒の寛容、学生の男子学生の社交クラブや女子学生クラブ組織への加盟はアルコールの使用や上記の三つのアウトカムと関連した。また同僚の飲酒への不同意はすべての飲酒と、アウトカムを強く予想した。また両親の大量飲酒への不同意、監視、男性は中等度のレベルのアウトカムに影響力を大きく与えた。	
<b>結論：</b> 私たちの発見は大学生における飲酒行動には同僚や仲間など(男子学生の社交クラブや女子学生クラブなどを含む)の影響同様に両親のもつ背景(両親の飲酒に関する寛容性)が重要であることを示唆している。このことは飲酒のアウトカムがいつ始まり、どのように進展していくかについて必要があるが強調される。また介入と予防への方法の探索が必要である。	